

令和3年度

第1回草津市認知症施策推進会議会議録

令和3年12月22日

草津市長寿いきがい課

第1回 草津市認知症施策推進会議会議録

◎日時 令和3年12月22日(水) 午後2時30分
◎場所 草津市役所 8階大会議室

◎出席委員 委 員 金森 雅夫委員 委 員 田辺 晶委員
委 員 宮川 正治委員 委 員 加藤 勇委員
委 員 中野 悦次委員 委 員 原田 節子委員
委 員 服部 静香委員 委 員 小川 正委員
委 員 アンドン 美加子委員 委 員 関根 秀子委員
委 員 松永 将孝委員 委 員 渡邊 邦子委員
委 員 新村 真喜子委員

◎欠席委員 委 員 上野 京委員
委 員 青木 裕未委員

◎事務局職員 健康福祉部 江南 副部長
地域保健課 松本 課長
高井 課長補佐
河邊 保健師
介護保険課 原田 課長
木村 参事
島川 課長補佐
長寿いきがい課 小寺 課長
川元 課長補佐
青木 課長補佐
中西 主査
川越 主査

◎議題

1. 開会

2. 議事

(1) 自己紹介

(2) 草津市認知症施策推進会議について

(3) 委員長・副委員長の選出について

(4) 草津市認知症施策アクション・プラン第3期計画について

(5) 草津市認知症施策アクション・プラン第2期計画令和2年度実績・評価について

3. 閉会

1. 開会 午後2時30分

<事務局より開会の挨拶・委員15名中13名の出席をいただき、事務局より開会を宣言・健康福祉部副部長から挨拶>

2-(1). 委員及び事務局紹介

<委員および事務局から一人ずつ自己紹介>

2-(2). 草津市認知症施策推進会議について

○事務局

<資料確認および資料2に基づき説明>

2-(3). 委員長、副委員長の選出

<草津市附属機関運営規則第4条第1項に基づき、委員長及び副委員長を委員の互選により、宮川委員を委員長に、中野委員を副委員長に選出>

2-(4). 草津市認知症施策アクション・プラン第3期計画について

<草津市附属機関運営規則第5条第2項の規定により、委員長が進行>

○事務局

<資料3に基づき説明>

○委員長

市が進めているアクション・プランの内容、特に数値目標を掲げられるものについて具体的に説明いただいた。御存知ない取組や、馴染みのない言葉があったかもしれないが、今の説明の中で皆さんからの質問や御意見、コメントがあれば御発言いただきたい。

○委員

行動計画の「(2)認知症の人を含む誰もが安心して暮らせる地域づくりの推進」の、到達目標にある「認知症高齢者等見守りネットワーク事前登録事業」について、一般市民に対してどれくらい周知がされているのか。登録数を増やすことを目標にしているのであれば、周知をしないといけない。認知症高齢者等見守りネットワーク加盟事業所数についても、調剤薬局やコンビニエンスストアはあちこちにあるの

で、そういった事業所に加盟してもらえば、効率的だと思う。自分が知らないだけかもしれないが、どうやったらキーホルダーをもらうことができるのか、どうやって事業所が加盟することができるのか知らない。

○事務局

調剤薬局については、薬剤師会と調整をしているところで、1月の薬剤師会の定例会の際に認知症サポーター養成講座をはじめ、見守りネットワークの加盟等について依頼する予定をしており、コンビニエンスストアについては、広く周知というよりは、個別にアプローチをしている。

一般市民への周知については、市のホームページ等で周知をしているが、どちらかという支援者向けの周知に力を入れており、行方不明になる可能性が高そうな方や、認知症で今後その可能性がある方について登録の御案内をいただくよう依頼している。

○委員長

実際に患者の方で登録された方を見ていると、一人歩きなど危険な行動があったりする中でケアマネジャーが御家族に勧めて登録されるということが多いように感じる。ケアマネジャーに対して周知をされているということか。

○事務局

会議の場や、毎年配布しているハンドブックを通じて周知をしている。

○委員

見守りネットワークを御家族に勧めた際に、近所の方に知られるのが嫌だと言われる方が多い。認知症がどういう病気かを理解されていないことが大きい。認知症になると人が変わってしまうと思っている人もいるので、認知症の本人が発信している映像等を用いて、啓発していけると良いのではないかな。

○事務局

認知症になったことで外に出にくくなり、体操などの馴染みの場に行けなくなったということも聞くので、引き続き参加いただけるように、体操を実施しておられる団体等、受け入れ態勢のサポートをしていければ良いと思う。

○委員長

行動計画（２）の最後に、「認知症であることを近所の人に話しておくことが大切と回答する人を 50%以上にする」ということを目標にしているので、委員が御指摘されたことを啓発活動の中に組み入れていただき、近所の人に話しているのが当たり前、という風になると良いと思う。

○委員

今年、学区で声掛け訓練を実施した。地域保健課の松本課長も参加されていたので、訓練の概要について説明してほしい。

○事務局

声掛け訓練とは、認知症の高齢者の方が道で迷われている時や困っておられる時に、どのようにして声をかけるのか、またどのように自宅に連れて帰るのか、実際に声掛けの仕方を体験していただくもの。老上西学区では昨年度も取り組んでおられ、その他にも笠縫学区や志津学区などでも取り組まれている。他の学区や町内会にも取組が広がるよう進めていきたいと考えている。

○委員長

実際に参加されて、感想や他の参加者の御意見はどのようなものだったか。

○小川委員

声のかけ方を聞いただけでは実際にできない、声をかけるのはとても勇気がいることだと、みなさんおっしゃっていた。訓練については、単発で実施するのではなく、継続して取り組む必要があると感じている。できるだけ毎年、年1回でもいいので、いくつかの町内会をまとめて取り組めると良いと話していた。

○委員

ケアマネジャーの会議の中で、小学校のうちから認知症について勉強してもらえると良いのではないか、という話が出たので、この会議の場で良いか分からないが、共有させていただく。

○委員長

これについては事務局の方ではいかがか。

○事務局

認知症キャラバン・メイトの会議でも、若年向けのサポーター養成講座を推進する必要があると話している。

今年度は放課後児童育成クラブで2箇所実施予定だが、小中学校では授業の兼ね合いもあり、実施に至っていない。コロナの兼ね合いもあるが、引き続きアプローチを続けていきたい。

○委員長

新たに学校のカリキュラムに組み入れていただくのは難しいと思う。人権教育や、既存の取組の中に組み込んでもらえればいいかもしれない。

○委員

先ほどの地域安心声かけ訓練を、平日ではなく休日に実施して、子どもを連れて参加してもらってはどうか。高齢者の方は、暗くなると位置が分からなくなることがある。登下校の時間帯に訓練を実施し、親御さんと一緒に子どもも参加してもらえると、学校の行き帰りに、気になる高齢者の方がいた時、声をかける訓練になって良いのではないか。

○委員

認知症の症状に気付いても、と思っても、2年くらいは「周りの人に言えない」と言われる方が多い。認知症について正しい理解ができていないことが原因だと思う。認知症は誰もがなりうる病気だということを、もっと伝えていく必要があると思う。

○委員

キャラバン・メイトとして活動しているが、メイトの人数が少ない。養成講座を受けてメイトになっても、実際に活動されている人が少ない状態。活動してもらえ、るメイトの養成に取り組んでもらいたい。

○委員長

非常に重要な課題だと思う。キャラバン・メイトの養成の状況や、受けた後のフォローの状況についてはどうか。

○事務局

委員から御指摘いただいた通り、コロナの影響でキャラバン・メイトの養成講座自体が開催できず、養成が滞っている状態。今年度は湖南4市合同で開催を予定している。養成講座を受けても実際の活動につながっていかないという点については課題と捉えており、例えばベテランメイトの活動を見学していただくなどのサポートを実施していきたい。

2-（5）.草津市認知症施策アクション・プラン第2期計画令和2年度実績・評価について

○事務局

<資料確認および資料2に基づき説明>

○委員長

認知症高齢者等個人賠償責任保険について、補償の範囲など具体的な内容について、事務局から説明いただきたい。

○事務局

認知症、あるいは認知症の疑いのある方で、認知症高齢者等見守りネットワークに加入いただいている方が対象となっている。賠償の範囲については、他人に損害を与えた場合に、最大1億円まで補償できる。現時点では、対象となる事故の報告を受けていないが、例えば線路に立ち入って電車を止めてしまったり、ホテルに宿泊した際に物を壊したり、レストランのソファを壊した場合などが対象になる。

○委員長

令和2年度の実績について報告いただいたが、みなさんから御質問や御意見はないか

○委員

基本目標 2 事業（6）、認知症なんでも相談所について、実際にはあまり相談がなかったと聞いている。もっと活用してもらえるように周知してほしいと思う。

○委員長

委員の事業所ではなんでも相談所に登録されているのか。

○委員

していない。認知症で困っている方が、なんでも相談所の看板を見て、介護事業所に相談しに行くにはハードルが高いと思う。先ほどの地域安心声かけ訓練などのイベントなどに顔を出して、何かあった時にはいつでも相談いただくよう伝えるようにしている。

地域安心声かけ訓練をしても、介護の仕事をしていても、実際にはなかなか声をかけにくい。デイサービスを利用すると、その方のテリトリーが自宅周辺から施設になりがちになるが、本来は、認知症の方々が普通に出かけられるような環境を作ることがまちづくりだと思う。

若年性認知症について、デイサービスにはあまり来られることがないが、人数等は把握されているのか。

○事務局

若年性認知症の方はデイサービスや医療機関の受診に行きづらかったり、御存知なかったりしておりつながりにくく、実態を把握しづらい。国が出している推計値を基に、草津市の人口に置き換えて算出すると、約40名という推計になる。

○委員

若年性認知症の方については、スポーツジムから連絡をいただくことがあり、認知症の疑いはあるが、会社に言うと仕事を続けられなくなることを心配され、医療機関や相談につながりにくい。しかし、支援するにも、本人からSOSを発信していただかないとなかなか動きにくい。行方不明にしても、認知症であることや助けて欲しいことを周囲に発信していないと、声をかけにくいと思う。

○委員

新興住宅地の中には、地域のつながりがない住宅地があり、自分もそこに住んでいる。今後、高齢化が進んでいったとき、このような地域はどうなっていくのか不安に感じている。新興住宅地が取り残され、いざ高齢化が進んだ時に、周りの人を全然知らないという地域が増えるのは怖い。今後は新興住宅地も課題としてあがってくるのではないかと、今日の地域づくりの話聞いて不安になった。

○委員長

草津市は、古くからの地域と新興住宅地、駅前のマンション群と3つの大きなグループに分かれて地域ができていて、それぞれに抱えている課題が違うように感じている。地域の現状や問題点について、認知症に関連した部分で、何か感じられることはあるか。

○委員

自分が住んでいる地域も元新興住宅地で、現在の課題として、単身者が増えてきたことがある。家族がいる場合は何かしら連絡があったりするが、単身の場合は閉じこもってしまうと状況が分からないことが多い。地域内でサポートできる場所であれば良いが、つながりがないところでは、どこに誰が住んでいるか、どうなっているか分からない。声かけ訓練など、もっと町内会単位など、身近に実施できる環境づくりが必要だと思う。

○委員

声かけ訓練について、老上西学区の場合は町内単位で実施するようにしている。

○委員長

そういったイベントに参加することで、住民同士が顔見知りになる可能性もある。活動を通じて関係の希薄さを減らしていけると良い。

○副委員長

草津の駅前に住んでいるが、町内会がなくなったり、高層マンションが建ってマンション内がどうなっているのか分からないということを実際に感じている。

認知症がある方の身体的疾患の治療に難渋することが非常に多い。それも、重

度の認知症なのに何の支援にもつながらず、地域からも孤立し、虐待が起こってしまうケースがある。そういったケースに対して、どのように関わっていくと良いのか、ということを経験できると良いと思う。

○委員長

非常に大事な、かつ深刻なテーマだと思う。私自身も問題に感じている内容であり、機会があればぜひ議題に挙げていただきたいと思う。

○委員

第4章の行動計画（3）、認知症の予防等の取組について取り上げられている。運動不足の改善や糖尿病・高血圧については、認知症の発症そのものを遅らせるというもので、従来型ではあるが大切なもの。もう一つ、不安や焦燥感、せん妄などの精神症状を和らげることも発症を遅らせると言われていることから、地域づくりをすることは非常に重要だと思う。

また、新聞を読んだり園芸をするなど、積極的に文化活動に取り組むことも認知症予防につながる。

○委員長

貴重な情報をいただいた。不安なく暮らせると認知症の予防につながるというお話や、楽しみや生きがいにつながる活動を持つことが予防につながったり、楽しみを継続することができて良いと思う。

○事務局

認知症の人への声掛けについてだが、地域密着型サービス運営推進会議や、以前に参加したサービス担当者会議の中で伺ったことですが、あらかじめ認知症だと分かっている場合は、どのように声をかけていくのか、ということを経験者間で共有し、そのように対応することができる。実際に、道に迷っていたが、あらかじめ共有していた声のかけ方で無事に帰ってくることができたというケースもあった。介護サービスを利用されている場合は、そういった会議の場で共有することで対応できることがあるということを知っていただきたい。

○委員

昔、アルミ鍋を使わなければ認知症にならないとか、ノビレチンを飲むと認知症にならないと聞くが、本当なのか。また、ボランティアのような立場で認知症の方をサポートすることができる人は、人口の何パーセントくらいいるのか。

○委員長

アルツハイマー病になる原因についてという事だと思うが、アルミ原因説は最近言われなくなっているので、アルミの摂取がアルツハイマーになりやすいということではないと思うが、アルツハイマー病の原因がはっきり分かったわけではないので、はっきりそうとは言い切れない。今のところ特定の食べ物を接種すると認知症になりやすいということはないと思う。

○委員

昔、アルミ鉱山で働いていた人たちに、精神疾患やアルツハイマー病の発生率が高いというデータがあるが、それは相当量を曝露されていたケース。

○委員長

サポートできる明確な人数を出すことは難しいと思う。市ではサポーター養成講座を開催しており、そこに参加されている人はおそらく委員がおっしゃったような対象に当てはまると思う。サポート側になれる人材の育成を引き続き進めていってほしい。

7. 閉会

○委員長

本日は活発な御議論をしていただいた。本日の会議は終了とする。

午後4時00分 閉会